

ひとつのキャラバンが終わり、また次が始まる。



Moonlight Shadow

小松菜奈

宮沢氷魚

佐藤緋美 中原ナナ 吉倉あおい 中野誠也

白田あさ美

原作:「ムーンライト・シャドウ」吉本ばなな著

(新潮社刊「キッチン」収録作品)

監督:エドモンド・ヨウ 脚本:高橋知由

製作:狩野修也 細野義朗 大山義人 村上正樹

プロデューサー:服部保彦 大木宏斗 企画プロデューサー:加藤伸崇 アソシエイトプロデューサー:加藤修

音楽:Tôn That An 撮影:コン・パフラック 照明:大庭郭基 録音:川本七平 美術:布部雅人

キャスティング:神林理央子 スタylist:阪上秀平 ヘアメイク:寺沢ルミ 編集:賢殿

サウンドミキサー:Chalermrat Kawerwattana 助監督:滝野弘上 制作担当:三村薫

ラインプロデューサー:鈴木徳至 コラボレーションソング:「Parallax」小泉政博 (MONO・ミュージック・ハウス)

宣伝プロデューサー:大塚秀太

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画制作助成事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

宣伝:S・D・P 配給:エレファントハウス

制作プロダクション:MAM FILM 制作協力:エゴワークス

©2021映画「ムーンライト・シャドウ」製作委員会

(M・P・R S・D・P CHIPANGU エレファントハウス)

9/10

ROAD SHOW

ムーンライト・シャドウ

（新映）

原作・吉本ばなな
主演・小松菜奈
名作ラブストーリーが
今こそ感涙の映画化!

INTRODUCTION

世界的ベストセラー小説の映画化を待っていた——。世界30か国以上で翻訳されている「ムーンライト・シャドウ」(新潮社刊「キッチン」収録作品)。吉本ばななの原点とも言える名作ラブストーリーが33年の時を経て遂に映画化。主人公・さつきを演じるのは、小松菜奈。作品ごとに圧倒的な演技力を発揮し開花し続ける彼女にとって、初の長編映画単独主演となる。さつきの恋人・等役には、役者として目覚ましい活躍をみせる宮沢氷魚。さらに、等の弟・柊を佐藤絆美、柊の恋人・ゆみこを中原ナナ、次世代を担う若手俳優が脇を固め、白田あさ美がさつきの前に現れる不思議な女性・麗に挑んでいる。そして監督は、以前から原作のファンだったというマレーシア出身のエドモンド・ヨウ。これからのアジアを牽引するフレッシュかつ実力あるキャスト・スタッフが集結したこの『ムーンライト・シャドウ』は、ある日突然に愛する人を亡くした主人公が、死者ともう一度会えるかもしれない、という不思議な〈月影現象〉を知り、哀しみをどう乗り越えるのか、どうやって未来へ進んでいくのかを描いていく。すべての人の心に沁みる、心を揺さぶる、「さよなら」と「はじまり」のラブストーリー。

STORY

つき(小松菜奈)と等(宮沢氷魚)は、鈴の音に導かれるように、長い橋の下に広がる河原で出会った。恋に落ち、付き合うまでに時間はかからなかった。等には3つ下の弟・柊(佐藤絆美)がいて、柊にはゆみこという恋人(中原ナナ)がいた。初めて会ったときから意気投合し、自然と一緒に過ごす時間が増えていく。食事をしたり、ゲームをしたり、ゆみこが気になっているという〈月影現象〉について「もしも現実に月影現象が起きたら、誰に一番会いたいか?」を語りあったり。何気ないけれど穏やかで幸せな日々が過ぎていくなかで、別れは前触れもなくやってきた。等とゆみこが死んだ——。深い哀しみに打ちひしがれるさつきと柊。愛する人を亡くした現実を受け止めきれず、ショックで食べることも忘れ、ひたすら走るさつき。そんなさつきを心配しながら、ゆみこの制服を着て何かを感じようとする柊。それぞれの方法で哀しみと向きあおうとしていた。ある日、2人は不思議な女性・麗(白田あさ美)と出会い、少しずつ「生きていく」という日常を取りもどしていく。そして、以前みんなで語り合った〈月影現象〉に導かれていく。もう一度、会いたい、会いに来てほしい——。その現象とは、満月の夜の終わりに死者ともう一度会えるかもしれない、という不思議な現象だった……。



©2021映画「ムーンライト・シャドウ」製作委員会

9月10日(金)TOHOシネマズ 日比谷ほか全国ロードショー

